



10/23 「役員研修」で茨城医療センターを視察・意見交換会実施

施設の中長期的な整備計画推進に向け、理事会が現場を視察

2019年10月23日、茨城医療センター(以下、茨城)にて「第7回役員研修」が開催されました。この役員研修は本学の再生に向けた「理事会機能の強化」のために2019年1月から統合管理室で企画・実施されているもので、今回は、法人の理事会役員が茨城に出向き、施設を視察しました。

今回、10月1日付で法人に「キャンパス整備部」が設置され、4キャンパスの整備を本部が統括して進めていく体制となり、キャンパス整備部職員も茨城を訪れ、役員と一緒に施設を視察しました。

視察には茨城の幹部や事務局が同行、現場の教職員に質問をしながら、興味深く話を傾ける役員姿があらわに見受けられました。

茨城ではすれ違う際には、教職員はもちろん、同じ敷地内にある霞ヶ浦看護専門学校の学生からも元気よく挨拶され、とてもアットホームな雰囲気を実感しました。視察途中、エレベーターで移動していたところ、車椅子の患者さんが乗ってこられる際、茨城の教職員が自然とエレベーターを降りてスペースを譲る姿からも患者さんに寄り添う、普段のホスピタリティの高さがうかがわれました。

■視察の様子……



■意見交換会の様子…… (於：医療・福祉研究センター 多目的ホール)



視察から見た「茨城医療センター」の特徴

- ▶ 県内に2つしかない大学病院
- ▶ 2.5次救急の機能を担っている
- ▶ 学生宿舎には、近隣の薬学生も無料で入寮している
- ▶ ひまわり保育室(元高橋記念館)の他に、阿見町、美浦村、稲敷市から病児保育開設の要請が来ている
- ▶ 包括ケア病棟39床を有し、訪問看護ステーションも併設

☞ 茨城医療センター広報誌「ほほえみ」も是非ご覧ください。
<http://ksm.tokyo-med.ac.jp/Page/Kouhou/Hohoemi/index>



意見交換会実施で、病院教職員と法人役員との相互理解の場を

今回、中長期計画で掲げている「経営と現場の相互理解の深化」および林学長が新生に向けて掲げている「ダイバーシティ推進」としての「意見の言いやすい雰囲気ならびに場作り、多職種間の交流の場作り」の一環として学長企画プロジェクトチームからも企画提案し、茨城の教職員の全面的な協力を得て、法人役員と病院教職員との意見交換会が実現しました。

意見交換会では、役員紹介や矢崎理事長・林学長(①)からの挨拶をはじめ、卒業生理事の尾形先生(②)・外部理事の堀田先生(③)から視察の感想などが伝えられ、その後、現場からの質問に理事会として矢崎理事長(④)を中心に、役員が回答していくという形で進行しました。

会場からは率直な意見や質問が飛び出し、「地域医療だけでなく“輝ける病院”にしたい」という意見は、とても印象的でした。

物理的に離れており、これまで交流する機会の少なかった茨城の病院教職員と法人役員が直接意見を交換できたことで、茨城の地域特性とそれに伴う苦労や課題を、法人役員が深く理解する貴重な機会となりました。

茨城の課題を伝える
小林病院長